

「クロスロード防災気象情報編」の作成と防災啓発の取り組み

名古屋地方気象台 向井利明

京都大学防災研究所巨大災害研究センター 矢守克也

静岡大学防災総合センター 牛山素行

1. はじめに

「クロスロード」とは、文部科学省「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として、チームクロスロード（矢守克也京都大学防災研究所教授、吉川肇子慶應義塾大学商学部教授、網代剛産業技術大学院大学助教）が作成した災害対応ゲーム教材である。1995年の阪神・淡路大震災における実際の災害対応事例を基に、2004年に「神戸編・一般編」が、その後「市民編」、「災害ボランティア編」等が作成された。設問に対して、各自がYESかNOかで自分の意見を示すとともに、参加者同士で意見交換を行いながらゲームが進行する。

名古屋地方気象台は、防災気象情報の普及啓発に資するツールとして、クロスロードの防災気象情報編（以下、「防災気象情報編」）を作成した。本稿では、防災気象情報編の作成経緯、狙い、特徴、防災気象情報編を活用した防災啓発の取り組み等を報告すると共に、今後の展開や課題等を述べる。

なお、「クロスロード」は、チームクロスロードの著作物であり商標登録されている。名古屋地方気象台はチームクロスロードと覚書を締結し、防災気象情報編の著作権は、チームクロスロードとの共有となっている。

2. 作成経緯

東日本大震災以降、防災知識等の普及啓発の重要性が再認識されている。気象庁は、防災気象情報や安全知識の普及啓発の“担い手”を育成・支援するという方針を掲げ、全国の気象台では、教育関係機関や日本気象予報士会等の防災啓発実施団体等（以下「団体等」）との連携による様々な取り組みを進めている。

このような背景の中、向井は、静岡県及び静岡大学防災総合センターが実施する「第4期ふじのくに防災フェロー養成講座」（平成26年3月からの1年間）の受講生として受講した「災害社会学」（講師：矢守）において「クロスロード」のことを学んだのをきっかけに、その仕組みを防災気象情報の普及啓発に活用できないかと考え、防災気象情報編の試作品を作成した。矢守は、向井が所属する名古屋地方気象台の普及啓発ツールとする場合に必要覚書の締結や試作品に対する助言を、牛山は、同養成講座のセミナー等において設問案に対する助言等を行った。そして、名古屋地方気象台は、プレテスト等を経て設問や解説を精査し、約1年かけて平成27年8月に防災気象情報編を完成させた。

3. 防災気象情報編の特徴と狙い

防災気象情報編の特徴や狙いを、クロスロード「神戸編・一般編」「市民編」（以下、「既存のクロスロード」）と対比させながら説明する。

（1）場面設定の発災時との時間的關係

既存のクロスロード50問と防災気象情報編10問の各設問の場面設定について、発災時との時間的關係を比較した（図1）。既存のクロスロードでは、発災3時間前までを想定した設問は1問のみで、それ以外は、すべて、地震による災害発生後もしくは平常時を想定した設問となっている。一方、防災気象情報編では、すべての設問が気象による災害発生前の場面であり、発災3時間前までの設問は5問と半数を占めている。警報等の防災気象情報は、現象の予測に基づく災害の蓋然性を示したものであり、防災気象情報から起こり得る災害をイメージし、防災対応を判断する力を高めることを狙っているのが、防災気象情報編の特徴の一つである。

(2) 設問ごとの「解説」

既存のクロスロードでは、各設問に対する「解説」は、「クロスノート」という名称で YES/NO それぞれの問題点を簡潔に例示している。防災気象情報編では、設問ごとに、活用する防災気象情報と防災対応の判断上のポイント（留意点等）を説明した「解説」を作成しており、1問ごとに進行役が「解説」を説明するという使い方を推奨している。既存のクロスロードが、災害対応における YES/NO のそれぞれの意見や考え方の相互理解に主眼が置かれているのに対して、防災気象情報編は、防災対応における防災気象情報の活用と判断上のポイント等への理解に主眼を置いているのが、二つ目の特徴である。

4. 防災気象情報編の作成方針と設問骨子

設問等は、以下の方針にて作成した。

①気象に係る防災気象情報に関する部外からの「よくある質問」を参考にできるだけジレンマを抱くような場面設定とする、②設問ごとに「解説」を作成し活用する防災気象情報の読み取り方と防災対応の判断上のポイント（留意点）等を説明する、③防災対応判断上のポイントは「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」（内閣府）等を参考にし、④各設問の狙い等を説明する「進行役用解説資料」（手持ち資料）も作成する。

作成した10の設問骨子を図2に、設問例を図3に示す。

5. 防災気象情報編の展開と課題

愛知県内の団体等に活用してもらうため、気象予報士会、防災士会、愛知県及び名古屋市から紹介された防災ボランティア団体、自治体等に防災気象情報編を紹介するとともに、進行等のノウハウを説明する講習会を開催した。2016年1月26日現在、14団体に防災気象情報編を提供し、啓発活動に活用されている。「講演等を聴くより理解できる」などの反響の一方、「解説の仕方が難しい」との声も聴かれており、今後、防災気象情報編を進行できる人材の育成と継続的な支援が必要である。

謝辞：防災気象情報編の作成にあたっては、静岡大学防災総合センター職員各位及び同講座受講生各位には多大なご指導・ご助言を頂戴した。改めて感謝する。

参考文献

内閣府：災害対応カードゲーム教材「クロスロード」,内閣府ホームページ,
<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/torikumi/kth19005.html>, 2015. 5. 31 参照。
 内閣府：避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン, 2015.

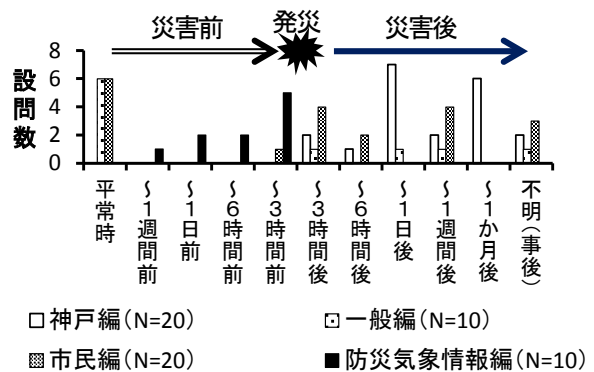


図1 場面設定における発災時との時間的關係

注1：神戸編、一般編、市民編では、設問中に「時期」の明記のない場合は、阪神・淡路大震災に係る各種報告書から、当該事態の時期を推定した。

注2：防災気象情報編では、警報級の現象が発現するタイミングを以って「発災」とした。

- 設問01：台風5日予報と旅行判断
 設問02：暴風警報と休校判断
 設問03：暴風警報と帰宅判断
 設問04：高潮注意報と避難判断
 設問05：大雨警報と買い物判断
 設問06：土砂災害警戒情報と避難判断
 設問07：指定河川洪水予報と避難判断
 設問08：大雨特別警報と夜間避難判断
 設問09：大気不安定時のキャンプ判断
 設問10：竜巻注意情報と少年野球判断

図2 防災気象情報編の設問骨子

・あなたは、住民 です
 梅雨前線の活動が活発になり、テレビでは〇〇地方に大雨警報と報じている。車で10分のところへ買い物に出かけようと思ったら、先ほどからやや強い雨が降ってきた。予定通り、買い物に出かける？ 出かけない？

図3 設問例